

校友さんい

立命館大学産業社会学部校友会報

編集人 片岡雅彦

発行人 荒岡作之

発行所 産業社会学部校友会
〒603

京都市北区等持院北町56-1

電 話 (075)463-1131(代表)

振 替 京都3-19595



事務室近影

特別の用でもない限り

学部事務室の扉を

開くことはなかった

なのに

4年間通いつづけていると

職員の方々一人ひとりに会うと

不思議な安心感と連帯感が

芽ばえていた

カウンター越しに

担当の先生をみかけることがあっても

先生があまりにもくつろいで

いらつしやるのについ声をかけ

そびれたこともあった

ここも又私達産社校友の

ふるさとなのかもしれない

(題字は元総長・細野武男氏)

全学校友会が主催する「全国校友大会」が去る一〇月二十六日(土)午後五時から京都・都ホテルにおいて、約七〇〇名の校友を集めて盛大に挙行政



全国校友大会に

参加した産社校友

四六年に産業社会学部を卒業し、前の会社を退職し、関係会社である、仲栄運輸商事(株)の営業部に勤務する様になったのは五十七年六月でした。営業部の主たる業務内容と言え、三菱鉱業

新規事業開発に
情熱を燃やして

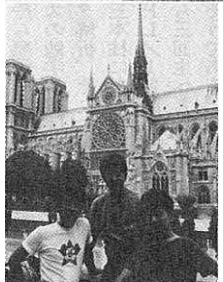
陣内敏博

(昭和46年卒
仲栄運輸商事株式会社
営業部勤務)



ゼミ旅行もヨーロッパへ

一昔前までは夢のような話である。もちろん、半年間のアルバイトの汗の血晶であるに聞いているが、気軽に出かけることが出来る時代となったことは、何んとも羨ましいかぎりである。編集者



ました。

会場には谷岡総長、川勝全学校友会会長をはじめ全国の支部から多数の校友がかけつけ、校歌、応援歌、寮歌ありで想い出話の花が咲きました。

産業社会学部からは真田学部長、川島事務長、荒岡校友会会長以下、多数の校友が参加、楽しい一日となりました。

産社OBに会うのが楽しみ

野久尾 徳美 (元・学部長
現・鹿児島経済大学学長)

早いもので、鹿児島経済大学の学長として赴任してからも六年半になります。鹿児島は中学・高校時代を過ごしたところですので昔馴染みも多く、高速道路が開通してからは郷里えびの市へも一時間余りで帰れるようになり喜んでいました。

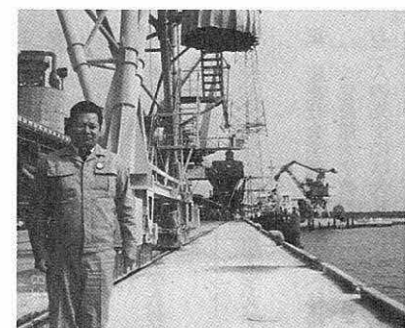
た、この夏は、桜島のドカ灰に悩まされ続けました。留居宅はそのまま大津石山にありますので、例年夏期休暇中はそちらへ難を避けることにしています。

ところでこの八月二日から一六日までの間、内蒙古自治区・新疆ウイグル自治区両政府の招請を受け、私



学再建・改革への取り組みはめざましく、日中交流への熱意も並々ならぬものがあります。申し出を受けた大学間交流にも本気で対応せねばと考えております。

この長途の旅のため、八月一七日の立命館大学校友会鹿児島支部総会への出席もできませんでしたが、多くの立命OB・B、産社OB・Bが鹿児島でも活躍しています。この二〇月三、四日には札幌へ参りますが、立命での最後のゼミ生山本綱鉄君や札幌大の高原一隆君(院卒)に会うのが楽しみです。



校友スクランブル

産社大家族職場から

産社の建学

精神に

生きる9人

門真市役所

京都三条から京阪電車に揺られて数一〇分。門真市駅で降り、「市役所」の矢印に従って階段を昇り、「National」の看板と長く続く工場の壁に驚きながら数分歩くと、私たちの職場、門真市役所があります。

門真市は、「高度経済成長」期に急激な工場や倉庫の進出、ミニ開発、そして、人口増(増加率日本一)を伴い都市化し、市政施行後二年たった今日、二・二二km²に一四万市民めく過密都市となっています。

松下電器の本社がある一方、低質な工場や倉庫の進出、ミニ開発、そして、人口増(増加率日本一)を伴い都市化し、市政施行後二年たった今日、二・二二km²に一四万市民めく過密都市となっています。



山口 敬二
(1期生 昭和44年卒)

産業経済課、保険年金課を経て市民生活課で消費者行政を担当。一期生の貫禄(?)でお腹が出っぱり、髪もめっきり薄くなっていますが、男前と頭の良さはむかしのまま。とニコニコ顔で話してくれます。みんなから「山ちゃん」と親しまれる由縁です。



大下 憲二
(1期生 昭和44年卒)

公害対策課に所属。職員組合結成に参画して以来、一貫して職員の生活と地方自治を守る運動の先頭になつており、現在、本部執行委員長。一見、むずかしい顔をしているが、信頼度抜群。市役所でこの人を知らないとモグリと言われる。



豊永 宏
(2期生 昭和45年卒)

人事課を経て福祉課勤務。煩雑な福祉行政の総合窓口的存在。仕事柄からか「夢は早く一戸建てを購入し、親子4人ささやかな家庭を築くこと」だそうです。



重野 吉雄
(2期生 昭和45年卒)

福祉、衛生関係を経て国民健康保険を担当。人に奉仕する仕事に生き甲斐を感じており、これからも頑張りたいとは、さすが先輩。



桑江 良和
(3期生 昭和46年卒)

都市計画、福祉推進課を経て国民健康保険を担当。重野さんと机を並べ、実務の中心的存在。大学のことを聞く



小野 忠嗣
(3期生 昭和46年卒)

公害、都市再開発、市街地整備、都市計画を手がけ、現在は開発指導課。街づくりの技術畑をずっと歩いてきた産社では異色の存在。



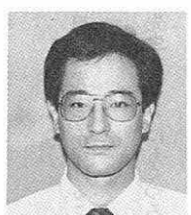
笠松 裕二
(4期生 昭和47年卒)

税関係の仕事一筋。納税課でコンビニエーター取り扱いの中心メンバー。ソフボール大会では剛速球投手としてその名を欲しままにしています。



前田 章子
(旧姓熊谷)
(6期生 昭和49年卒)

老人医療の仕事一本のエキスパート。



稲毛 雅夫
(13期生 昭和56年卒)

市民生活課で労働行政担当。サラ金相談と融資で頭を悩ます日々。仕事の延長(?)で、組合職員(本庁)支部の書記長をさせてもらっている。

門真市の職員数は一四三〇人、立命館OBの比率が高いと言われています。産社OBは全員で9人。しかも、同一建物の中で机を並べているというのは、歴史浅い産社の中で、ちょっとめずらしいのではないのでしょうか。私たち自身、おどろくと同時に、これほど横のつながりもほとんどなかったのですが、これを機に、一度みんなで食事でもしたいなあ」と話し合っています。また、福祉や社会保障、都市問題関係の仕事にすることが多く、労働組合活動にも積極的に参加しています。産社で学んだ建学精神は変わらず、こ門真でも生きている、そんな気がしてなりません。(文責 稲毛)

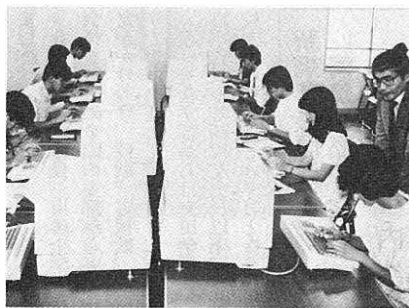
さんしゃ
RANDOM FILE

学部を巣立つて社会人として活躍されているみなさんに、卒業後も産業社会学部の動きに注目し、関心をもっていただくために、学部に関するデータの中から最新の情報を取り出し、お知らせすることをねらいとしてこのコーナーを設けました。その第一回として、最近就任されました先生方の内から、現在、時代の最先端をいくコンピュータを駆使して、講義・演習に学生の興味・関心を引くような内容の授業を展開され、勉学意欲を高めておられる奥川桜豊助教授(計量社会学担当)に産業社会学部の印象と自己紹介を重ねて大いに語っていただきました。

アメリカの大学には日本の大学でこなわれているような「専門ゼミ」の制度がない。上回生(特に四回生)が受講する科目は、大規模な大学においても通常二〇名ぐらいである。個人的指導を望む学生は、教授のオフィス・アワー(あらかじめ約束を取りつけてなくても、自由に研究室を訪れることができる)を利用すれば、効果的に勉強できることになっている。つまり、ゼミのような「集団主義」ではなくて、「個人」で選択されるものであるとの原則になっている。

従ってどの科目も自主的に勉強しなければ単位取得は難しい。余談ながら受講登録においても立命館のようには余裕のあるいわゆる「空登録」などは不可能であり、年間登録単位は三六単位である。

来春でゼミ五期生を迎える私は、どうやらこの集団主義にはまっぴらしたらしい。というのは、グループ・プロジェクトの共同作業で、うまくいっていない時は、一人一人に文句を言わず、特定の人にその旨伝えれば、うまく処理できることを覚えたからである。



TSS授業風景

さて、「情報処理の社会学」ゼミもどうやら順調に定着しつつある。ゼミクラスの勉学目標は、調査企画と実践データ解析、それに報告書を書くことが三本柱になっている。TSS教室でのPL/I言語の取得も来年は四回生から三回生へとうまく引き継がれていきそうである。SPSS(統計解析のパッケージプログラム)の使い方も少しずつ高度になってきた。出来れば、今秋から手がけている「大阪都市圏の社会・経済指標」のデータベースを二三年かけて、このゼミの共有財産として完成させたいと願っている。

卒業後も継続的に学習し、その成果を先輩と共に学ぶという決意を込めて、アペンド会(奥川ゼミ同窓会の名称。

1986年度3回生演習開講テーマ

担当者名	演習テーマ
清野正義	社会学理論の研究
佐藤嘉一	社会的役割理論の研究
木田雄男	現代社会と主体の状況 *
鈴木良	日本の近代化—社会史的アプローチ—
小林幸男	現代日本の政治・外交をめぐる諸問題—日本近代化社会の史的展開—
奥川桜豊彦	情報処理の社会学 *
川又洋司	社会のなかの科学・技術
藤田武司	企業と社会
宮下吉吉	ハイテク時代・情報化社会と科学技術論
松葉正文	高度成長期の研究—現代日本経済分析—
藤原北介	労使関係の新しい動向
井上純一	現代文化の研究
松尾博文	現代社会とマス・コミュニケーション
須藤泰秀	現代ジャーナリズムと言論の自由
森田清平	現代社会と社会心理学
中川勝雄	地域社会と住民生活
飯田哲也	家族生活の変化と家族問題
高木正剛	家族史研究—歴史人口学からのアプローチ—
真田是	現代社会と社会問題
佐々木雄三	現代の社会病理
河合幸尾	現代の社会保障
渡藤晃	都市化社会の諸問題
深井純一	ダムと河川計画—高原野菜の村で考える— *
吉田美喜夫	産業構造・就業構造の変化と労使関係上の諸問題—派遣労働を素材として—

* 調査実習ゼミ

ABEND=ABnormal Ending=異常終了)を結成した。その例が、毎年十二月初旬に行われる。それには、卒業生による講演、三・四回ゼミ生との交流、また新三回生ゼミグループの紹介を含めた盛り沢山のプログラムが展開される。今年も、きつと荒れ狂うアペンド会となろう!

(略歴) 高3の時、一九六二・六三年の一年間をAFS交換生として米国コロラド州デンヴァーに遊学したことから運命が狂い始める。帰国後、半年間の受験特訓が実らず京大に振られ、プレスクラブの奨学生としてコロラド州立大学に再度渡米するも、一年を終了して上智大学国際部(現、外国語学部

三回生演習テーマ決定!!

みなさん思い出しませんか? ゼミ選択にあたって、頭を悩ました時のことを。希望通りのクラスに決まった人ならなかった人、悲喜こもももであったことと思います。そのシーズンが今、始まっています。論文作成に追われた

苦しい日々、それが完成し、一月に提出した後の喜びをもう一度思い出して見てください。新たな同学心が芽はえることを願って一九八六年度三回生演習開講テーマを掲載しました。

このニュースがお手元に届く頃は全員のゼミクラスが確定しています。後輩ゼミを励ましてやってください。

比較文化科)に編入す。在学中に、韓国ソウル市にある西河大学に一夏遊ぶ。卒業後、台湾台北市の外国語センターで五ヶ月研修、その間、ハワイ大学東西センターからの人類学調査グループに加わる。

一九六九年より六年間米国ペンシルヴァニア州ピッツバーグ大学社会学部大学院で学ぶ。専攻は、歴史現象の計量分析。その後の六年間をピッツバーグ大学ブラッドフォード分校で社会学を講じる。一九八一年三月三十日に講義を終り十二年ぶりに帰国し、四月二日より「今浦島」の心境で以来衣笠キヤンパスをほつつき歩き、本学計算機センター研究員を四年間つとめる。

入会の



お願い

終身会費 三千元
入会される方は同封の「振込通知票」に必要な事項をご記入の上ご送金下さい。なお既に送金済の方は不要です。さらに学部創立二〇周年を記念して作成いたしました「学部づくりの二〇年」(産業社会学部二〇年小史、すぐに役に立つゼミ担当者名入りの既卒者名簿(第一期生一九八四年三月卒を共に三千元(送料含)にて頒布しておりますので、ぜひこの機会に合わせて購入していただくことをお願いいたします。



苦節二年、阪神タイガース日本一、このニュースが流れたのは編集会議の真最中、一同歓喜の声(ごめんなさい他球団のファンの方)

これからも忍耐強く、機関誌の充実に取り組みます。ご協力のほど!!

お詫びと訂正(創刊号)

誤 奥田修三先生 立命館大学教授
正 大阪経済法科大学教授

誤 鈴木清先生 立命館大学文学部教授
正 産業社会学部から文学部へ移籍(立命館大学教授)

お二人の先生には失礼致しましたことをお詫びいたします。編集委員長